

有権者-エリート・モデル：  
政党と支持者集団  
アブストラクト

東京大学大学院法学政治学研究科

山本 耕資

現代の政党は、多かれ少なかれ、その大衆的基盤として支持者集団を持つ。一般には、政党とその支持者との関係は、支持者の支持・投票の見返りに、政党が支持者の選好に合致する政策を実行する（しようとする）ものと理解されている。他方、代議制民主主義を、有権者が自らの政策選好に最も近い政治エリートを選択し、その選好をエリートレベルに反映させるだけのものとするならば、そこでは政党にとって「政党支持者」の存在理由はない。そうであれば、果して、支持者と政党に関する先の理解は正しいのか。正しいとすれば、どのような条件下で正しいのか。それをシミュレーションによって明らかにすることが、本報告の目的である。

有権者の投票行動（投票方向）を政党支持（政党好感度）と政策選好から決定し、そのような有権者の中で得票を増やすべく政党が行動するというシミュレーションモデルにおいて、政党支持が投票行動を規定する度合いによって政党の行動がどのように変化するのかを観察した。具体的には、政策的立場を平面上の位置によって表し、有権者と政党が一定の配置にあるとき、政党支持の投票への規定力によって、政党が政策平面上をどのように動いていくのかを調べた。

その結果、政党が支持者集団を離れて行く（支持者集団の政策選好を無視する）度合いと支持の規定力との間には U 字状の関係があることがわかる。つまり、支持の規定力が相対的に強い場合にも政党は支持者集団を離れていき、相対的に弱い場合にも同様のことが言えるのである。第 1 に、高い好感度を持つ支持者集団がすでに存在する場合には、支持の規定力が強いと政党は支持者集団に政策的に釘付けにされる必要がなくなり、新たな得票を求めて政策位置を移動していく。他方、第 2 に、自党支持者以外で魅力的な票田にうまく移動することが可能な場合、支持の投票への規定力が低いほど、政党は自党支持者に見切りをつけて票田へ向かう。このように、高い好感度を持つ支持者集団、あるいは魅力的な票田の存在という条件が満たされれば、上のような U 字状の関係が表れるのである。

さらに、最近の日本の政治状況を単純化した政党・有権者配置についてもシミュレーションを行なった。この場合もおおよそ上述の U 字状の関係が見られるが、支持の規定力が弱い場合特に共産党が大きく移動すること、公明党に関しては U 字状の関係にはなっておらず、支持の規定力が弱い場合にむしろ移動距離は少ないということが明らかとなった。